



種なしブドウは、種がないのにどうやってふやすの

種なしブドウは、もとは種がある

種なしブドウは、特別に種がないブドウの種類が、あるわけではありません。ふつうに育てれば、種ができてくるブドウです。種なしブドウを作るときは、ブドウの花が咲く2週間前に、花のふさに薬をふきつけ、花粉をころします。さらに、花が咲き、実ができたとき、一ふさずつ、薬を吹きかけたり、実の部分に薬につけたりします。すると、種は、そのまま成長がとまって大きくなり、実だけが大きくなり、種なしブドウができるのです。

種がない果物は、ほかにもある

バナナやパイナップル、ウンシュウミカンなどは、もともと、種がないまま実がなります。カキは、種類によって、種があるものと、ないものがあります。しぶぬきをした、あまくておいしいカキには、種がありませんね。カキやミカンなどは、ほとんどが、接ぎ木(おいしい実がなる木の枝を、同じ仲間のほかの木の枝や幹に、くっつけて1本の木にしてしまう)で、ふやしていくため、種がなくても、こまらないのです。

バナナなどは、根からたくさん出てくる、新しい子どもの芽で、ふやせます。

種なしスイカは、すぐにはできない

種なしスイカを作るときは、まず、スイカの芽に薬をつけ、特別の種を作らせます。その種から育ったスイカの花に、ふつうのスイカの花粉をつけると、種なしのスイカができます。このように、種なしスイカは、作るのに手間がかかり、食べたとき少しざらざらした感じすることから、それほど、たくさん作られていません。(監修・矢野 亮)

